教育活動自己点検表

下野市立薬師寺小学校

※Ｈ２９学校経営、教育課程について（自己評価用紙）

Ⅰ学校経営全般

	評価項目	評価の観点 ●個人としての取組を評価 ・学校全体としての取組を評価	評価 4-3-2-1 評価平均
教育計画	(1)学校教育目標の具現化	●学年学級経営目標に具体的に位置付け具現化を図ってきた。	3.35
	(2)学校教育計画の作成改善(教育課程、各種年計、各実施　計画等)	・学校経営方針、県市の方針、学校評価等を取り入れた計画になっていた。	3.47
校務分	(3)学校運営の方針	●校長の運営方針をよく理解して職務を遂行した。	3.60
	(4)校務分掌の遂行	●計画の見直しと改善を図り、意欲的に実践してきた。	3.42
開かれた学校	(5)地域教育力の活用 ・ふるさと学習(自然、産業、歴史など)、学校支援ボランティアなど	・地域素材の教材化、地域人材の開発活用等は十分だった。	3.47
	(6)学校開放の機会	・授業参観や学校行事（運動会、薬小祭等）を通した学校開放の時期や内容は適当だった。	3.63
	(7)家庭への情報発信	・ＨＰ、学校便り、学級便り等は適当だった。	3.53
	(8)信頼される学校	・規範意識を高め、教育公務員としての自覚のある言動に努め、信頼される教師を目指した。	3.74

Ⅱ教育目標の達成状況・具現化

心ゆたかな子	(1)児童への肯定的な関わりを 通した自己有用感と夢・希望の育成 自己有用感の育成 達成指標3.2	●児童一人一人の人権を尊重し、存在感があり、良さを認め合える学年学級経営を実践し、家庭訪問や個人面談、連絡帳等を活用して、保護者との連携を図り、信頼関係の構築に努めた。	3.44
		・学校の実態から重点課題を明確にし、学校教育活動と関連づけた道徳教育全体計画を作成し、各学年・学級は実態に応じた価値ある実践を工夫し、各学級における「道徳の時間」が充実するよう工夫することができた。	3.56
		●なかよし班による児童会行事、学校行事等を通して、望ましい人間関係を構築するとともに思いやりの心やリーダー性を育てることができた。	3.59
		・学校行事や体験活動の目標を明確にし、児童が感動や成就感を抱くことができる活動を工夫し、地域団体やボランティア、公共施設等を活用し、様々な人々と触れ合うことの楽しさや地域の良さを実感できた。	3.53
		●朝の読書活動やＰＴＡによる学級文庫の充実により読書の習慣化を進め、図書支援員や保護者ボランティアの支援体制、図書委員会活動により、学校図書館の整備と効果的な活用を図り、読書活動を充実させた。	3.76
よく考る子ども	(2)「学ぶ力」と「学び合い」を育む学習指導の改善 学ぶ力、学び合いの育成 達成指標3.2	●児童にとって分かる授業、楽しい授業を目指して、学年で教材研究を進め、ねらいの共有化と指導方法の工夫改善に努めた。	3.41
		・学校課題研究において協同的な授業研究（指導案検討会、要請訪問、Ｓ&Ｕコラボ事業）を推進し、学びを保証する「学び合い」を工夫した授業を目指し、児童の思考過程とその見取りを重視した指導方法を研究することができた。	3.63
		●各教科において児童の思考に基づく表現活動の取り入れ方を工夫し、表現力の向上を図り、学級や学年、異学年間で学習の成果を発表し合う場を工夫することができた。	3.19
		・家庭学習４か条の奨励や「家庭学習の手引き」の活用により、家庭と連携しながら、基本的な学習習慣の定着と、授業と家庭学習との関連を図ることができた。	3.28
		・学校生活におけるインプット、モジュールによる外国語活動、環境作り等を工夫し、子供と共に英語を楽しむ授業を目指して、ＡＬＴとの打ち合わせ時間の確保や校内研修を実施することができた。	3.24
たくましい子ども	(3)全教育活動を通した、たくましい心と体づくり 安全指導の徹底 達成指標3.2	・学年に応じて主体的な目標設定ができるように手立てを工夫し、意欲が持続するような賞賛を工夫したり、児童同士が認め励まし合える場面を設定したりしながら、取り組みの様子を見守り、どの子も達成感が味わえるようにできた。	3.41
		・児童の体力、運動能力等のデータを基に具体策を立て、運動量の確保と楽しさを保証し、健康の保持増進及び体力の向上を図る授業づくりを行うことができた。	3.24
		●校舎内外の安全管理や安全指導を徹底し、児童が主体的に考え安全に行動できるよう生活態度の育成に努めるとともに、事故や災害等の未然防止に努めることができた。手洗いやうがい、歯磨きの習慣、日常の衛生指導、予防指導等、健康に関する指導が周知徹底できるよう、保健便りや学年便り、学校保健委員会を通して家庭に啓発することができた。	3.44

		●外部講師（栄養教諭）を活用した授業を計画的に実施し、食への意識を高めるとともに、児童を通して家庭への啓発を行うことができた。アレルギーを持つ児童への給食対応を全職員で共通理解し徹底することができた。	3.72
教育課程実施上の基本方針	(4)一人一人の良さを認め育てる児童指導の推進	・「生活のきまり」を活用し、共通理解の下、全教育活動を通して善悪の判断や自己の生き方について考えさせる指導に努め、基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける　指導の徹底に努めた。	3.33
		●コミュニケーションスキルを身に付ける活動や、友達と関わり合う体験を重視して、児童と教師、児童相互の好ましい人間関係の醸成に努めた。	3.33
		・報告・連絡・相談を密にし、教育相談体制を整え、問題行動等委員会を適宜開催し、組織的かつ迅速に対応できた。	3.95
	(5)一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	・コーディネーターを中心に、個別の指導計画に基づいた指導を全校体制で取り組むとともに、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行った。	3.74
	(6)人権尊重の精神を涵養する人権教育の推進	●各教科等において、人権教育に視点を当てた授業の実践に努めるとともに、人権が尊重される雰囲気作りに努めた。	3.35
	(7)学校間の継続性、系統性ある教育活動の推進	・相互授業参観や情報交換会、小中交流などを実施して、幼保・小・中間の連携が図られた。	3.35
	(8)生き方を考えるキャリア教育の推進	●キャリア教育の視点を踏まえた　授業を展開し、生き方や職業、勤労への考えを深めさせた。	3.13
	(9)情報教育の推進	●パソコンや図書、新聞等の情報手段の活用を各教科等で計画的に実施するとともに、情報モラルに関する指導を計画に位置付けて、系統的に指導した。	2.88
	(10)ふるさと学習の推進	・学校行事、各教科、総合的な学習等を通して、地域の歴史や文化への理解と住民との連携を深める「ふるさと学習」を展開し、ふるさとを愛し誇りに思う気持ちの醸成に努めた。	3.59

Ⅲ学校課題

職員研修・	(1)学校課題の研究推進	・学校課題の設定、研究の組織や進め方は適切だった。	3.63
		・より良い授業作りに向け、授業の提案、研究会が継続的に実施できた。	3.74
	(2)現職教育の充実	・研修や会議の時間が十分に確保され、研修内容が充実した。	3.37

Ⅳ教育課程の改善

年間計画	(1)各教科等の年間指導及び評価 計画の実施・改善	●年間指導（評価）計画の見直しができた。	3.06
日課・週時	(2)ゆとりある日課・週時程・時数の確保	・普通、特別、業間日課は適切に実施された。	3.47
		・各教科等の週時程（ＡＢ時間割）は適切であり、時数確保はできた。	3.59
		・読書の時間（朝学）、業間活動（集会や運動）、ゆうゆうタイムは有効だった。	3.37
各教科	(3)各教科指導の充実	●各教科の時間が確保され、学習内容を着実に進めることができた。	3.31
道徳	(4)道徳教育の推進	●毎週の道徳の時間を確保し、指導法を工夫し充実したものになった。	3.50
特活	(5)特別活動の充実	・学校行事、児童会活動、クラブ活動の時数が確保され適切に行われた。	3.71
総合	(6)総合的な学習の時間の充実	●地域の特色や身近な生活などから課題を見付け、探究的な学習に取り組めるよう支援した。	3.40
外国語	(7)外国語活動の充実 （低・中学年も含む）	●外国語活動は指導法を工夫（ＡＬＴ任せでなく）し、計画的に実施できた。	3.07

Ⅴ庶務・管理

事務	(1)文書管理	・文書の収受・発送・伝達・保存は適切に行われた。	3.72
	(2)服務	・出勤簿、出張命令、復命書、休暇簿等の整理は適切であった。	3.72
会計	(3)学校集金	・学校集金の事務処理（金額設定、会計処理）は適切だった。	3.71
	(4)予算	・行事への公費予算や消耗品予算は適切だった。	3.76
その他：次年度の教育計画案や勤務開始終了時刻、事務処理や打合せ等の省力化など何でも結構です。（具体的な問題点、改善策を書いてください。）			
			3.48